

平成25年度日本NGO連携無償資金協力署名式典

7月12日（金）、平成25年度日本NGO連携無償資金協力署名式典が当館多目的ホールにて執り行われ、隈丸優次特命全権大使と特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパンの林朝子カンボジア事務所長が、「コンポントム州母子保健改善に向けた健康な村作り事業 フェーズⅢ」（供与限度額：125,858米ドル）案件の贈与契約書に署名を行いました。



本案件では、ピープルズ・ホープ・ジャパンが母子保健改善の必要性が特に高いカンボジア農村部のコンポントム州バライ郡及びサントウク郡の村において、保健センターの母子保健サービス、伝統的産婆、保健ボランティアといった、同地域に存在する既存のリソースを有効活用しながら、地域住民自らが母子保健改善の「実践者」となるよう支援し、母子保健状況の持続的な改善を図ることを事業目標としています。

今年度から実施するフェーズⅢでは、フェーズⅠ&Ⅱで実施した保健・衛生教育、ボランティア育成活動、ネットワーク構築支援のうち、効果の乏しかった村に対して再度重点的に支援を実施するとともに、事業終了後も、地域住民が母子保健及び衛生活動を継続して実践出来るように、計画的に事業の引渡しを行っていく方針です。

式典では、隈丸大使がスピーチを行い、活動の最終年次となる本事業を通じて、対象地域の約4万7千人の住民が、より衛生的・健康的な生活を持続的に送れるようになることを期待すると述べました。続いて、林朝子カンボジア事務所長がスピーチを行い、日本国民及び政府への感謝の意を表明するとともに、全対象地域が一定の目標段階に到達した上で住民へと活動の引渡しができるよう、今後も地域住民および関係者と協力して尽力していくと述べました。

